



天文台だより

銀河の森天文台
2022 春号
Vol. 95

「上出先生を偲んで」

りくべつ宇宙地球科学館（銀河の森天文台）
館長代理 津田浩之



上出洋介館長(写真右)と写る津田浩之館長代理(写真左)

当館館長の上出洋介名古屋大学名誉教授が、2021年12月9日逝去されました。享年78歳でした。先生は、オーロラ及び磁気圏電離圏研究では世界を代表する研究者でした。特に地磁気嵐とサブストームに関する研究では新たなモデルを開発されました。

陸別町との関りは、1989年10月21日出現した低緯度オーロラがきっかけで92年8月、先生からの突然の電話で始まりました。当町にとって運命的な出会いでした。それ以来先生のオーロラ講演会、米国やカナダの研究者の講演会、国際会議が開催されオーロラと言えば陸別町という地域ブランドが形成されていきました。時を同じくして92年秋から始まった銀河の森天文台の計画では、天体観測の他オーロラ観測の立地を生かした、低緯度オーロラや大気環境関連の研究観測拠点の整備も盛り込ま

れることになりました。先生はその中心となって大学研究機関との連絡調整を担っていただきました。現在の科学館2階の名古屋大学宇宙地球環境研究所陸別観測所・国立環境研究所陸別成層圏総合観測室へと繋がっていきます。また、陸別町社会連携連絡協議会を設立し、小中学校への出前授業をはじめとした地域貢献事業にもご尽力いただきました。2010年からは、当館館長に就任され宇宙飛行士の講演会、オーロラの生中継など新たなイベントや企画を次々と実施、天文台を盛りたてていただきました。先生は、「クレヨンしんちゃん」に例えられるような眉毛と茶目っ気あふれるユーモアのある人でした。子供たちや来館者に科学の面白さをたくさん教えてくださいました。

世界を飛び回ってオーロラ研究の最前線で活躍されていた先生を失ったことは残念でなりません。ここに上出館長のご功績に深い感謝の意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

春のイベント情報 !!

☆春の大三角と天体観望会

ゴールデンウィークの期間、春の星座を探す目印「春の大三角」から様々な春の天体をめぐる観望会を開催します。ぜひ、ご来館ください。

開催日：4月27日(水)～5月8日(日)

※5月3日(火)は特別開館します。

説明会：午後7時30分から(土・日・祝日のみ)

暦表 (陸別町)

| | 日の出 | 日の入 | 月齢 | 月の出 | 月の入 |
|-------|------|-------|------|-------|-------|
| 4月1日 | 5:04 | 17:55 | 29.4 | 5:19 | 17:48 |
| 4月15日 | 4:40 | 18:11 | 13.9 | 16:14 | 4:14 |
| 5月1日 | 4:15 | 18:30 | 0.3 | 4:27 | 18:55 |
| 5月15日 | 3:57 | 18:46 | 14.3 | 17:35 | 3:24 |
| 6月1日 | 3:43 | 19:03 | 1.6 | 4:32 | 20:55 |
| 6月15日 | 3:39 | 19:12 | 15.6 | 20:21 | 3:52 |

2021年度銀河の森天文台写真展を開催しました!

毎年開催しているイベント「2021年度銀河の森天文台写真展」を2022年3月4日～20日の日程で開催しました。

写真展では、最近の一年(2021年3月1日～2022年2月28日)で撮影した天体や星空の写真を公募し、展示しています。今年は、天文台撮影の18枚に加え、応募された6名12枚を含めて、30枚の画像を展示しました。応募された方、ありがとうございました。



プラネタリウム上映中止について

当館では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間、プラネタリウム上映を中止しています。

当館のプラネタリウムはエアドーム式といって空気でもふくらませる方式で、直径4メートルの小さなエアドームになります。エアドーム内での上映は「三つの密(密閉・密集・密接)」を避けられないのが現状です。このような状況を考慮し、当館ではコロナ終息までプラネタリウム上映を再開しないこととなりました。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

天文行事&暦

4月

- 1 ●新月
- 5 清明(24節気:太陽黄経15°)
- 17 ○満月
- 20 穀雨(24節気:太陽黄経30°)
- 29 水星が東方最大離角
(光度:0.2等, 離角:20.6°)
- 27-5/8 春の大三角と天体観望会

5月

- 4/27-5/8 春の大三角と天体観望会
- 1 ●新月
- 3 特別開館
- 5 立夏(24節気:太陽黄経45°)
- 16-27 天文台メンテナンス休館
- 16 ○満月
- 21 小満(24節気:太陽黄経60°)
- 30 ●新月

6月

- 6 芒種(24節気:太陽黄経75°)
- 14 ○満月
- 16 水星が西方最大離角
(光度:0.5等, 離角:23.2°)
- 21 夏至(24節気:太陽黄経90°)
- 29 ●新月



天体そもそも話「二重星」

今回は「二重星」についてお話しします。二重星とは、二つの星がきわめて近くに並んで見える星のことです。三つ以上並んで見えるものはその数に応じて「**〇重星**」と呼ばれます。

二重星は、実際に近接し、重力的な関係性を持つ「**連星**」と、たまたま同じ方向に見える無関係な星の組み合わせである「**見かけの二重星**」の二種類に大別されます。両者の判別は難しい場合もあり、一例を挙げるとはくちょう座のアルビレオが見かけの二重星であると結論付けられたのは最近の話です。

二重星は空のあちこちにありますが、肉眼では一つに見える場合がほとんどであるため、観察するには双眼鏡や望遠鏡を使います。二つの星の間隔だけでなく、色や明るさの組み合わせも多彩です。色々見比べて、お気に入りの二重星を探してみましょう！ (三)



ペッコカめぐり「フクジュソウ」

雪が解けた銀河の森に、真っ先にフクジュソウが黄色い花を咲かせます。フクジュソウはスプリング・エフェメラルと呼ばれる草花の一種で、スプリング・エフェメラルを直訳すると「春のはかない命」というような意味となります。早春、雪解けから森の木々の葉が生い茂るまでの短い期間に花を咲かせ夏になる前には枯れてしまう、そんなはかない姿を表現したものです。銀河の森に咲くフクジュソウは、日本に自生する4種のフクジュソウのうちのキタミフクジュソウで、日本では北海道の北部と東部に限られるそうです。

天文台の周りのフクジュソウが咲くのは4月のはじめ頃、天文台前の斜面や天文台への最後の上り坂あたりを探すと見つかることができますよ。(中)



天文台からのお知らせ

- ☆ 4月より開館時間が、14:00~22:30 (昼間14:00~18:00、夜間18:00~22:30)となります。
- ☆ 5月3日(火)は、特別開館します。
- ☆ 5月16日(月)~27日(金)は、天文台メンテナンス休館となります。

発行・編集：りくべつ宇宙地球科学館 (銀河の森天文台)
〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100
URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>
E-mail: ginga@rikubetsu.jp Twitter: @ginganomori_obs

